

生起相修飾成分の認定と分類

彭 玉全

キーワード：生起相修飾成分、生起相修飾成分の枠、生起相修飾成分の分類、副詞

要 旨

本稿は、生起相修飾成分の機能、修飾対象、出現位置および修飾の興行きといった側面から生起相修飾成分を再認定して、その枠を先行研究の枠より拡大した。しかし、「もう」と「まだ」を生起相修飾成分の枠から取り除いた。そして、生起相修飾成分と動詞のアスペクト形式との共起傾向から、生起相修飾成分をA類、B類に下位分類した。最後に、A類とB類の生起相修飾成分の「意図性」と「予見性」という素性を検討した。

0. はじめに

生起相修飾成分の性質は、矢澤（1983,1985,2000,2007）で述べられているが、その枠は「突然」「急に」「いきなり」などの幾つかの副詞しか取り上げられていない。それ以外の副詞があるかどうか明言されていない。これに対して、赤羽根（1993）は、生起相修飾成分の枠を「生起に関わる時間が小さい類」に広めて、「もう」「まだ」も生起相修飾成分に入れている。生起相修飾成分の枠について、これまでの先行研究ではまだ十分に捉えられていない。また、生起相修飾成分の下位分類と各類の素性もまだ考察されていない。

本稿の目的は、生起相修飾成分の枠の認定を検討し、生起相修飾成分を下位分類し、各類の生起相修飾成分の素性を明らかにすることにある。

本稿では、『CD-ROM 版 新潮文庫の 100 冊』における 1945 年以降に発表された日本人作家の 46 作品から用例を集める。用例を採取する際、手作業で「突然の」「急な」「いきなりの」「間もなくの事だ」「まもなくのことであった」「間もなくである」「まもなくだった」といった形式を取り除いた。また、修飾される述語動詞の「して」「し」の形や、連体節に使われる副詞の場合も考察の対象外として、主節に用いられるもののみを考察対象としている。採取した用例数は、次の表 1 に

示しておく。

表1 生起相修飾成分(副詞)の用例数

副詞	用例数	副詞	用例数	副詞	用例数	副詞	用例数
突然	234	さっそく	797	間もなく	279	やっと	427
いきなり	269	すぐ	1091	そのうちに	200	ようやく	379
急に	729	たちまち	572	やがて	1066	とうとう	188
にわかに	70	ただちに	554	ついに	479		

1. 生起相修飾成分の認定

生起相は、階層的情態修飾関係構成における一つの相である。生起相修飾関係を構成する副詞(例えば、「突然」「急に」など)について、矢澤(1983, 1985, 2000, 2007)によって生起相修飾成分と命名されている。矢澤氏の一連の副詞研究の文献においては、「生起相修飾成分」として次のような副詞が挙げられているが、これ以外の副詞が存在するかどうかは明言されていない。

矢澤(1983)：突然・にわかに・いきなり・おもむろに・しばらくして・ひきつづき

矢澤(1985)：突然・やにわに・急に・いきなり・にわかに

矢澤(2000)：突然・不意に・いきなり・にわかに・突如・おもむろに・やおら・最初に・はじめに・第一に・まず・さらに

矢澤(2007)：突然・おもむろに・最初に・ついで・はじめに・第一に・まず・さらに

矢澤氏の生起相修飾成分は、「突然」「急に」およびその類義語を代表する生起状態の修飾成分と、「最初に」「第一に」などの生起順序の修飾成分に限られて、いわゆる時間の副詞(「ただちに」「すぐ」「まもなく」「やっと」「とうとう」)は、生起相修飾成分に属していないと考えられる。

これに対して、赤羽根(1993)は、生起相修飾成分の範囲を以下のように、「生起に関わる時間量が小さい類」に広めて、それを下位分類している。まとめてみると、次のようになる。

I 事態の生起の在り方を、前の事態との時間量的関係性から捉える類

「さっそく・即座に・とっさに・たちどころに・たちまち・じぎ・すぐ・まもなく・みるみる(うちに)」

II 事態の生起の在り方を、話し手の予想を前提として捉える類

「急に・にわかに・いきなり・突如・突然・不意に・もう・まだ」

赤羽根(1993)は、上のI類の時間量を表す時間の副詞も生起相修飾成分に属すると指摘している。ただし、そのII類における「もう」「まだ」を生起相修飾成分に入れるのは適当かどうか疑問である。

矢澤(1983、1985、2000、2007)と赤羽根(1993)は、ただ生起相修飾成分の一部を取り上げてその性質を記述したことにすぎないと思われる。本稿では、矢澤氏の副詞についての捉え方を踏襲しながら、まず、生起相修飾成分の枠を明らかにしたい。

1.1. 先行研究

生起相修飾成分という概念は、矢澤(1983)で最も早く規定されている：

様態修飾成分は、動態の過程のあり方を修飾限定する「ユックリ」「速ク」「ザブリティ」等の類と、過程というよりむしろ、事象(コト)の起こり方を修飾限定する「突然」「ニワカニ」「オモムロニ」「シバラクシテ」「ヒキツツキ」などの類とに分けることができる。前者は過程のサマを表すことから、過程相修飾成分、後者はコトの生起のサマを表すことから生起相修飾成分と名付ける。(矢澤 1983, p.34)

つまり、コトの起こり方を修飾限定し、コトの生起のサマを表す修飾成分は、生起相修飾成分である。しかし、「コトの起こり方」「コトの生起のサマ」は具体的にどういうものを指すかは言及していない。さらに、生起相修飾成分が「イベントの起こり方を表す」「動詞句における出来事(event)の側面を修飾対象とする」「出来事がどのように起こるかを表している」(矢澤 2000)、「事態の起こり方を修飾限定する「突然」「にわかに」など、事態の生起の様態を表す」(矢澤 2007)と生起相修飾成分を規定している。

しかし、「出来事の生起様態」を表す修飾成分について、矢澤氏により取り上げられている例示の語は、赤羽根(1993)においての「II 事態の生起の在り方を、話し手の予想を前提として捉える類」に限られているようである。赤羽根(1993)で

は、「事態の生起の在り方を、前の事態との時間量的関係性から捉える類」の副詞も生起相修飾成分と見ている。言い換えれば、「出来事の起こり方」は、話し手の予想を前提として捉えるだけではなく、前の事態との時間量的関係性からも捉えられる。だとすれば、事態の生起する時間量を表す副詞も生起相修飾成分に入れるべきであろう。赤羽根（1993）は、「生起に関わる時間量が小さい類」の生起相修飾成分について論述しているが、同じ論理では、「生起に関わる時間量が大きい類」の生起相修飾成分も存在するだろうか。

1.2 生起相修飾成分の認定

本節では、1) 機能、2) 修飾対象、3) 出現位置、4) 修飾の奥行きといった側面から生起相修飾成分を認定してみる。

1.2.1 機能

矢澤（1983、1985、2000、2007）と赤羽根（1993）における生起相修飾成分は、語彙的な意味から見れば、仁田（2002）でいう「動作の起動への時間量を表す副詞」に相当する。仁田（2002）は「突然」、「すぐ」、「にわかに」などのような副詞を「動作の起動への時間量^{*1}」を表す副詞と名付けている。さらに、これらの「動作の起動への時間量を表す副詞」を次のように下位分類している。

- [1] <僅少所要型> : 「急に、至急、不意に、いきなり、やにわに、突然、突如、咄嗟に、唐突に、だしぬけに、にわかに、すぐ（に）、じき（に）、直ちに、たちまち、たちどころに、さっそく、即刻、即座に、すかさず、とたん（に）、…」
- [2] <中期所要型> : 「程なく、間もなく、おっつけ、そのうち（に）、近いうちに、やがて、ややあって、しばらくして：四・五日して、数年して、二・三日すると、二・三日たって、十年もたって、…」
- [3] <長期所要型> : 「ようやく、やっと、とうとう、ついに、…」
(仁田 2002,p.247, p.251, p.253 より)

仁田（2002）においての「動作の起動への時間量を表す副詞」に比べて、矢澤

*1「<動作の起動への時間量>とは、事態への取り掛りまでの時間量、事態が発生・実現するまでの所要時間量に関わるものである」（仁田2002, p. 246）。

の生起相修飾成分は、ほとんど [1] <僅少所要型>の「動作の起動への時間量を表す副詞」である。「動作の起動」は、「出来事の生起」と同じ意味である。ただし、仁田氏の副詞研究は、語彙的な意味だけを記述しているが、矢澤氏の副詞研究は、意味及び副詞とその被修飾成分との修飾関係構成から捉えている。しかし、なぜ [2] [3] の副詞が生起相修飾成分として認められていないのだろうか。[2] [3] の副詞の個々の語彙的意味・用法は [1] の副詞と異なるが、動作（出来事）の生起の起こり方における時間量を表すという機能は [1] の副詞と同じであると思われる。

1. 2. 2. 修飾対象

矢澤氏の生起相修飾成分（例えば、「突然」や「いきなり」など）は、動詞句における出来事（event）の側面を修飾対象としている。

- (1) 突然 徐々に赤く染まっていった (矢澤 2000,p.220: (83a))
 (2) いきなり 太郎が思いきり 皿をわった (矢澤 2000,p.220: (84a))

仁田 (2002) における [2] と [3] の副詞の修飾対象はどうであろうか。次の用例を見られたい。

- (3) a. 「間もなく女中が焼って来る。それまでは、これでもやってくれ」(『剣客商売』)
 b. 「間もなく冬になる。そうしたらおれはきっとやる」(『孤高の人』)
 c. まもなく西の空が赤くなった。
 d *² まもなく西の空が赤かった。
- (4) a. 「結婚して半人前、人の親になって、やっと一人前になったのだ。」(『孤高の人』)
 b. それまで黙ってきいていた妻が、やっと口を出した。(『忍ぶ川』)
 c. やっと部屋の中は明るくなった。
 d *やっと部屋の中は明るかった。

2 本稿では、「」が非文を表し、「?」がやや不自然な文を表す。以下同。

ここからみると、[2] と [3] の副詞も、出来事の側面は修飾できるが、状態は修飾できないといえよう。つまり、[2] [3] の副詞は、[1] の副詞と修飾対象を取っている。

1.2.3. 文における出現位置

矢澤（1983、1985、2000、2007）では、情態修飾関係における生起相修飾成分の出現位置をまとめてみると、次のようになる。

存在相修飾成分 → 生起相修飾成分 → 過程相修飾成分 → 状態相修飾成分

- (5) この風船は ときどき 突然 プワーと 大きくふくらむよ。
(矢澤 2007,p.72)

生起相修飾成分は、存在相修飾成分より後に、過程相修飾成分より前に出現する。
[2] と [3] の副詞の出現位置は、次のようになる。

- (6) しかし、そのうちに 戦局が 次第に わるくなり、ついには誰の目にもとうてい見込みがなくなりました。(『ビルマの豎琴』)
- (7) その瞬間大きな地震が来ることを直感した地震に慣れている東京育ちの夫は『来るぞ』とじっと伏せて身構え、まもなく、ゆっくりぐらぐらと大きな揺れが続きました。 <http://gemini.way-nifty.com/dressup/2005/01/index.html>
- (8) やがて 彼等の姿が次第に 大きく くなりました。(『沈黙』)
- (9) この数年、そのせいで散々後悔して、ここ1年ぐらいでやっと徐々に改善され始めた。 <http://gemini.way-nifty.com/dressup/2005/01/index.html>
- (10) 三十年戦争の開始から 100 年以上にわたって被害を受け続けたこの都市も、ようやく次第に復興し始めた。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/2008/05/04>

(6) (7) (8) (9) (10) の用例で示したように、「そのうちに」「まもなく」「やがて」「やっと」「ようやく」といった修飾成分は、過程相修飾成分や、状態相修飾成分より前に出現する。こういう点から考えても、[2] と [3] のような修飾成分の出現位置は、生起相修飾成分「突然」や「いきなり」などと類似している。ただし、存在相修飾成分との出現位置の関係は、「突然」などの修飾成分とは異なっていると思われる。この点に関しては、後述する。

1.2.4 修飾の奥行き

生起相修飾成分は、出来事の生起のありかたを修飾限定するものである。「突然」や「にわか」などは、〈シハジメル〉〈シダス〉など開始（即ち、「局面の新たな展開」）を表す被修飾成分との修飾関係において、その修飾の奥行きが常に「ーハジメル」や「ーダス」、「ーてくる」といった補助動詞の部分までを修飾限定する（矢澤 2007, p. 59）。これは、生起相修飾成分の特徴といえば、次の用例^{*3}で示すように、[2] と [3] の修飾成分の修飾の奥行きが、「突然」や「にわか」のような [1] 類の副詞と同じを有しているといえるだろう。

(11) やがて九人の少年達の目の前を、黒い貨物列車がゆっくりと 通過しはじめた。

(12) まもなく ゆっくりと 列車が 走り 出した。

(13) 頭が、ようやく ゆっくりと 動き 始めた。

(14) やっと 徐々に 車が 流れ 始めた。

*3 (11) あとの二組がすぐうしろにきていた。断機の手前で待っているのは二台のトラックと一台の乗用車で、歩行者は九人の少年達だけだった。やがて九人の少年達の目の前を、黒い貨物列車がゆっくりと通過しはじめた。(『冬の旅』)

(12) 急いで客車の一つに乗り込むと、まもなくゆっくりと列車が走り出した。http://www.shse.u-hyogo.ac.jp/inoue/Profile/indexprofile.htm (2008/05/04)

(13) 驚きのあまり、一瞬何も考えられなくなっていた頭が、ようやくゆっくりと動き始めた。http://www.shse.u-hyogo.ac.jp/inoue/Profile (2008/05/04)

以上検討したように、1) 機能、2) 修飾対象、3) 出現位置、4) 修飾の奥行きといった側面から考えれば、仁田 (2002) の [2] 類と [3] 類の「動作の起動への時間を表す副詞」は、矢澤 (1983、1985、2000、2007) の「突然」や「いきなり」などの生起相修飾成分と同じ性格を有し、出来事の実現・生起のありかたに関わる時間を表すものである。したがって、「まもなく」「やがて」「そのうちに」などの [2] 類と、「やっと」「ようやく」「ついに」「とうとう」「ようやく」などの [3] 類は、「突然」「いきなり」「にわかに」などの [1] 類の副詞と同じように、生起相修飾成分に入れるべきであると思われる。

1.2.5. 「もう」と「まだ」について

赤羽根 (1993) は、「もう」と「まだ」を「事態の生起の時点と時間量的に反する予想を前提とするもの」として、生起相修飾成分と見ている。本稿では、「もう」と「まだ」の類の副詞を生起相修飾成分として認めない。その理由としては、次のようなものがあげられる。

まず、「もう」「まだ」は、動詞句における出来事だけではなく、次の (15) ~ (18) のように、名詞句や形容詞句における状態も修飾できる。生起相修飾成分は、出来事の実現のありかたを修飾限定するもので、その修飾対象は、出来事に限定されている。この点においては、「もう」「まだ」は生起相修飾成分と異なるものである。

- (15) 「もう昼めしの時間だ。だけどこのへんのめし屋っていうのは混むからなあ」(『新橋烏森口青春篇』)
- (16) 橋の向うに暮れてゆく山はもう白かった。(『雪国』)
- (17) 若い、気の弱い男で、まだ独身だった。(『エディプスの恋人』)
- (18) 夜ふけて西宮の家へたどりつき「お母ちゃんまだキキ痠いのん?」「うん空襲で怪我しはってん」(『アメリカひじき・火垂るの墓』)

そして、「もう」と「まだ」は、事態の起動への時間を表すわけではない*4。これらは、話し手が想定する事態と当該事態の前後関係を表すだけで、想定事態と

*4 仁田 (2002 : p.255) を参照。

当該事態^{*5}との時間的間隔を表現していない。例えば、

- (19) 帰館は大抵一時頃で、この時刻になると女中ももう寝ている。(『山本五十六』)
- (20) シートに座ったとたんに私は眠りこんでしまったらしく、ふと気がついたとき電車はもう新宿に到着していた。(『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド』)
- (21) 「旦那さまは、釣が分もたちますえ。」と声をかけた。すると厠のなかで、「うん、もう出る。」と父があたりまえの声で答えた。(『忍ぶ川』)

(19)における「もう」は、話し手が「寝テイナイ」事態を想定していたのに対して、当該事態「寝テイル」は、この想定事態を乗り越したその後の事態であることを表している。(16)における「もう」は、当該事態「新宿に到着シテイル」は、想定事態「新宿に到着シテイナイ」の後に出現したことを表している。(19)(20)から分かるように、「想定事態の展開・変化後に出現した事態であれば、既実現事態であることが基本である(仁田 2002,p.257)。」また、(21)のように、当該事態「出ル」が未実現の事態であるが、「もう」によって想定事態「出ナイ」の後に出現する事態が表されることができる。

「もう」に対して、「まだ」は想定事態の展開・変化前に当該事態が出現したことを表す。次の(22)(23)(24)を見られたい。

- (22) しかし、彼の友人の一人は「中村は生きています。きっとまだ生きています」といっているそうである。(『ビルマの豎琴』)
- (23) 包囲は五十日をすぎているのに、コンスタンティノーブルはまだ持ちこたえている。(『コンスタンティノーブルの陥落』)
- (24) 「おなかの傷はまだ痛む？」と娘が訊ねた。(『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド』)

(22)における「まだ」は、話し手が「生きテイナイ(死ンダ)」事態を想定して、

*5「もう」と「まだ」について、「想定」と「出張」で捉えるという説(金水 2000)、「想定事態」と「当該事態」で捉えるという説(仁田 2002)を参照。

当該事態「生きテイル」をそれに至る前の未実現事態として捉えていることを表し、被修飾成分としての動詞がテイル形で現に存在している持続事態であることである。(24)においては、治る前の「痛ム」の持続事態がル形で表されている*6。以上、述べたように、「もう」と「まだ」は、出来事の生起のあり方(様態)を表すのではなく、想定事態と当該事態との前後関係を表すものであり、生起相修飾成分とは異なっていると考えられる。

さらに、「もう」と「まだ」は、文における出現位置という点でも、生起相修飾成分と違っている。矢澤(1983, 2000)によると、生起相修飾成分は、存在相修飾成分の後、または過程相修飾成分の前に出現する。しかし、次の用例で示すように、「もう」と「まだ」は、存在相修飾成分の前に位置している。

- (25) もう何度も同じようなことを書いていますが、魚の卸し方は「ヒラメ」のように特殊な形をした魚以外は殆ど卸し方は同様だと思って下さい。
<http://www.m-net.ne.jp/~matusima/> (2008 / 05 / 20)
- (26) 自分はこれまでに、もうたびたび猫のことを書いてきた。<http://www.interq.or.jp/rap/yoshida/lite02-3.html> (2008 / 05 / 19)
- (27) このようなカエルは、東京でもまだよく見られる。<http://www.tokyo-zoo.net/topic/> (2008 / 05 / 19)

以上、「もう」と「まだ」の性格について述べた。「もう」「まだ」の類の副詞は、生起相修飾成分ではないといえる。出来事と状態を修飾し、存在相修飾成分の前に出現する「もう」「まだ」のような修飾成分を仮に「出現相修飾成分」と呼ぶことにする。このほかに、「すでに」「もはや」や「なお」などもこの類の副詞であると思われる。これらの副詞の性質については、別稿で検討する。

本節で確認したように、生起相修飾成分の1) 機能、2) 修飾対象、3) 出現位置、4) 修飾の奥行きといった側面から判定すれば、仁田(2002)の「起動への時間量を表す副詞」の全て(「もう」と「まだ」を除く)は、生起相修飾成分に属すると思われる。具体的に、例を挙げれば、次のようなものがある。

*6 仁田(2002 : p.256)を参照。

急に、至急、不意に、いきなり、やにわに、突然、突如、咄嗟に、だしぬけに、にわか
に、すぐ(に)、じき(に)、直ちに、たちまち、たちどころに、さっそく、即刻、即座
に、すかさず、とたん(に) 程なく、間もなく、おっつけ、そのうち(に)、近いうち
に、やがて、ややあって、しばらくして：四・五日して、数年して、二・三日すると、
二・三日たって、十年もたって、ようやく、やっと、ようやく、とうとう、ついに...

2. 生起相修飾成分の下位分類

生起相修飾成分の下位分類について、馬場(1980)^{*7}、赤羽根(1983)、仁田(2002)などいくつかの指摘があるが、いずれも副詞そのものの語彙的意味・用法によって、下位分類が行なわれる。本稿は、生起相修飾成分とその被修飾成分との修飾関係において、その被修飾成分である述語動詞のアスペクト形式によって下位分類してみる。

本稿は、生起相修飾成分と共起する述語動詞のアスペクト形式について、用例調査をした。調査結果は、表2で示しておく。

矢澤(2000)では、「突然」や「にわか」など生起相修飾成分は、「～始める」「～手くる」など、局面の新たな展開を表す表現と共起しやすい(矢澤2000, p.221)」と指摘している。しかし、表2から次のようなことが分かった。

*7 馬場(1980)の分類：

a 発話の現時点が基準の場合

i その時点からの時間的距り

(イ) 即時性 (e.g. いま、いますぐ、ただいま、etc.)

(ロ) 近時性 (e.g. もう、もうすぐ、もうじき、いまに、おっつけ、近々、etc.)

b 談話中のある時点が基準の場合

i その時点からの時間的距り

(イ) 即時性 (e.g. 即刻、即座に、たちどころに、ただちに、すぐ(に)、じき(に)、さっそく、すかさず、そうそうに、はやばやと、etc.)

(ロ) 近時性 (e.g. まもなく、やがて、ほどなく、etc.)

ii その時点からの継続時間の長短 (e.g. たちまち、にわか、あっというまに、またたくまに、みるみるうちに、etc.)

第一に、全体からみれば、「突然」「にわか」を含めて全ての生起相修飾成分が「スル/シタ」というアスペクト形式と共起する割合が極めて高く、「シハジメル」「シテクル/シテイク」「シダス」などの局面の新たな展開を表す形式と共起する割合がより低い。その原因は、「シハジメル」「シテクル」「シダス」のようなアスペクト形式は、いずれも「過程動詞」*8 にしか成立しないのに対して、「スル/シタ」形式は、「過程動詞」でも「非過程動詞（瞬間動詞）」でも成立するので、後者のほうが数量的には多いのである。

表2 生起相修飾成分と共起する述語動詞のアスペクト形式

	スル/シタ	シテイル/ シテイタ	シハジメル	シダス	シテクル/ シテイク	シテシマウ	合計
突然	176 (75.21%)	0 (0%)	5 (2.14%)	16 (6.84%)	29 (12.39%)	8 (3.42)	234 (100%)
いきなり	206 (77.15%)	5 (1.87%)	8 (3.00%)	10 (3.75%)	27 (10.11%)	11 (4.12%)	267 (100%)
急に	505 (69.27%)	13 (1.78%)	19 (2.61%)	44 (6.03%)	95 (13.03%)	53 (7.27%)	729 (100%)
にわか	47 (67.14%)	1 (1.42%)	3 (4.29%)	7 (10%)	7 (10%)	5 (7.14%)	70 (100%)
さっそく	728 (91.34%)	48 (6.02%)	13 (1.63%)	4 (0.50%)	2 (0.25%)	2 (0.25%)	797 (100%)
すぐ	985 (90.28%)	12 (1.10%)	10 (0.92%)	6 (0.55%)	18 (1.65%)	60 (5.50%)	1091 (100%)
たちまち	433 (75.70%)	11 (1.92%)	9 (1.57%)	5 (0.87%)	23 (4.02%)	91 (15.91%)	572 (100%)
ただちに	542 (98.19)	3 (0.54%)	1 (0.18%)	0	2 (0.36%)	4 (0.72%)	552 (100%)
まもなく	253 (90.68%)	2 (0.71%)	4 (1.43%)	2 (0.71%)	11 (3.94%)	7 (2.51%)	279 (100%)

*8 「過程動詞」：動きは始まり点と終わり点を持ち、過程がある動詞で、従来「継続動詞」と呼ばれるもの。

そのうち (に)	159 (79.5%)	0 (0%)	9 (4%)	1 (0.5%)	19 (9.5%)	12 (6%)	200 (100%)
やがて	873 (81.89%)	14 (1.31%)	43 (4.03%)	21 (1.97%)	85 (7.97%)	30 (2.81%)	1066 (100%)
やっと	405 (94.85%)	2 (0.47%)	7 (1.64%)	3 (0.70%)	10 (2.34%)	0	427 (100%)
ようやく	309 (81.75%)	15 (3.97%)	16 (4.23%)	5 (1.32%)	32 (8.47%)	1 (0.26%)	378 (100%)
とうとう	143 (76.06%)	1 (0.53%)	5 (2.66%)	2 (1.06%)	1 (0.53%)	36 (19.15%)	188 (100%)
ついに	398 (83.09%)	1 (0.21%)	8 (1.68%)	3 (0.63%)	5 (1.04%)	64 (13.37%)	479 (100%)

第二に、生起相修飾成分は、出来事の生起のありかたを修飾限定するもので、「シハジメル」「シダス」と「シテクル/シテイク」形式は、出来事の局面の新たな展開を表す形式であって、生起相修飾成分が述語動詞の「シハジメル」「シダス」と「シテクル/シテイク」との共起する状況は意味深い。その共起状況を整理すれば、表3になる。

表3 生起相修飾成分と「シハジメル/シダス」、「シテクル/シテイク」との共起状況

	シハジメル/シダス	シテクル/シテイク
突然	8.98 %	12.39 %
いきなり	6.75 %	10.11 %
急に	8.63 %	13.03 %
にわか	14.29 %	10 %
さっそく	2.13 %	0.25 %
すぐ	1.47 %	1.65 %
たちまち	2.44 %	4.02 %
ただちに	0.54 %	0.36 %
まもなく	2.14 %	3.94 %
そのうち (に)	4.5 %	9.5 %
やがて	6.0 %	7.97 %
やっと	2.34 %	2.34 %

ようやく	5.55 %	8.47 %
とうとう	3.72 %	0.53 %
ついに	2.31 %	1.04 %

表 3 の太線で示しているように、「シハジメル/シダス」と共起する割合をあわせてみれば、「突然」「いきなり」「急に」「にわかには」、いずれも 5%以上である。「さっそく」「すぐ」「たちまち」「ただちに」「まもなく」「そのうちに」「やっと」「とうとう」「ついに」は、ほとんど 5%以下である。また、「シテクル/シテイク」と共起する割合は、「突然」「いきなり」「急に」「にわかには」、いずれも 10%以上で、「さっそく」「すぐ」「たちまち」「ただちに」「まもなく」「そのうちに」「やがて」「やっと」「ようやく」「とうとう」「ついに」は、いずれも、10%以下である。つまり、「突然」「いきなり」などの生起相修飾成分は、「さっそく」「まもなく」「やっと」などの生起相修飾成分より、「開始局面」を修飾しやすいと考えられる。この点から、生起相修飾成分を二分類することができる。つまり、次のようになる。

A 類:

突然、急に、不意に、いきなり、やにわに、突如、咄嗟に、だしぬけに、にわかには
/おもむろに、やおら、…

B 類:

B₁: すぐ (に)、じき (に)、直ちに、たちまち、たちどころに、さっそく、即刻、
即座に、すかさず、とたん (に)…。
B₂: 程なく、間もなく、おっつけ、そのうち (に)、近いうちに、やがて、しばらく
くすると、しばらくて、二・三日すると、二・三日たって、四・五日して、数
年して、十年もたって…。
B₃: やっと、ようやく、とうとう、ついに、ようやく…

さらに、B 類の生起相修飾成分は、同類の生起相修飾成分と共起できるかどうかという点から下位分類できる。B 類の生起相修飾成分には、「すぐ(に)、じき(に)、直ちに、たちまち、たちどころに、さっそく、即刻、即座に、すかさず、とたん(に)」などが他の生起相修飾成分と共起できない、これを B₁ 類と呼ぶ。

これに対して、「程なく、間もなく、おっつけ、そのうち（に）、近いうちに、やがて、しばらくすると、しばらくて、二、三日すると、二、三日たって、四、五日して、数年して、十年もたって」などが、「やっと、ようやく、とうとう、ついに、ようやく」と共起できて、出来事（述語動詞）の生起のあり方を修飾限定する、前者をB₂類と呼び、後者をB₃類と呼ぶ。B₂類は常にB₃類の前に出現する。

- (28) 水島水島とみながいうのですが、いかに気をもんでも、このように捕われの身で、様子をさぐりに人をだすこともできません。そのうちに、ついに一月二月と日がたちました。（『ビルマの豎琴』）
- (29) それからは、しばしば御息所を見舞ったが、七、八日して、とうとう、はかなくみまかった。（『新源氏物語』）
- (30) 五月さんは暫くしてやっとそれを見つけた。（『太郎物語』）
- (31) やがて朝の光がやっと板と板との隙間からさしこんできました。（『沈黙』）
- (32) 武蔵の操舵には、高度な技術を必要とした。艦体が余りにも大きいため、舵を曲げても、一分四十秒もたってから漸く舵がききはじめる。（『戦艦武蔵』）
- (33) そのうちに、ようやく大ていの準備はできました。（『ビルマの豎琴』）
- (34) 先日、出産したばかりですが、吸引を何回もやってもなかなか出ずその時胎児の心音が60－70くらいになっていました、かなり会陰切開をしたとおもいますが、程なくやっと出てきました。
http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail（2008 / 05 / 19）
- (35) それから間もなく、ようやく佐渡の家からの迎えも来た。
http://www008.upp.so-net.ne.jp/aiz/000honma-jidai-shyo_003.html（2008 / 05 / 19）

以上述べたように、本稿では、語彙的な意味だけではなく、動詞との修飾関係から生起相修飾成分を下位分類した。このような分類は、仁田（2002）の語彙の意味からの分類より、客観的に副詞の素性、副詞と動詞との修飾関係を記述できると思われる。

3. 生起相修飾成分の素性

本節では、生起相修飾成分の素性について検討する。矢澤(1983、1985、2000、2007)では、主に本稿における A 類生起相修飾成分の素性について検討している。本稿は、矢澤氏の指摘を踏襲しながら、B 類を含めて生起相修飾成分全体の素性を検討してみたい。

3.1. 文における出現位置

第 1 節で述べたように、A 類の生起相修飾成分の文においての出現位置は、存在相修飾成分の後、過程相修飾成分の前に出現する。それに対して、B 類の生起相修飾成分は、しばしば過程相修飾成分の前に出現するが、存在相修飾成分とあまり共起しないといえる。

(36) この風船は ときどき 突然 プワーと 大きく ふくらむよ。
(矢澤 2007, p.72)

(37) * この風船はときどき まもなく おおきくふくらむよ。(作例)

(38) * いつも (すぐに/じきに/ただちに/やがて/そのうちに/二、三日すると) … (作例)

(39) * 常に (とうとう/ついに) 彼は家へ帰った。(作例)

この現象の理由は、生起相修飾成分の語彙的意味と関係があると思われる。A 類の生起相修飾成分は、出来事の生起の様子(あり方)を表すもので、同じ生起の様子の出来事が繰り返しえるので、回数の多寡を表す存在相修飾成分と共起できる。B 類の生起相修飾成分は、しばしば一回の出来事の生起の時間的なあり方を表すのに用いられて、同一の時間軸にある時点に同じ出来事が生起しないので、存在相修飾成分とあまり共起しないのである。これは、A 類の生起相修飾成分と B 類の生起相修飾成分の素性の一つであると思われる。

3.2. 動詞の「シテイル」形式のアスペクト的意味への制限

表 2 から分かるように、生起相修飾成分は、「シテイル/シテイタ」形式と共起する割合が極めて低い。矢澤(2000、2007)では、「突然」などの A 類の生起相修飾成分が動詞の「シテイル」形式と共起する場合、動詞の「シテイル」形式のアス

ペクトの意味は、「動作進行」や「結果残存」の読みに制限されている^{*9}と指摘した。B 類の生起相修飾成分でも、A 類と同様に、動詞の「シテイル」形式と共起する場合、動詞の「シテイル」形式のアスペクト意味は、「動作進行」や「結果残存」の読みに制限されている。

地の文においては、生起相修飾成分が動詞述語の「シテイル/シテイタ」形式と共起すると、「動作進行」や「結果残存」の読みに制限される。この場合の「シテイル/シテイタ」の機能は、テキスト的機能を果す「タクシス」^{*10} というカテゴリーで、つまり、出来事間の時間的な相互関係〈同時性—先行性—継続性〉で説明すべきである。

3.3 意図性と予見性

最後に、生起相修飾成分の構文的特徴について触れる。先行研究^{*11}では、「突然」などの A 類生起相修飾成分によって修飾される出来事は「意外性」(または「突発性」)を有すると指摘している。そのため、これらの生起相修飾成分は、意志・勧誘・命令などの話し手の「意図性」を表す表現には用いられないと思われる。また、A 類の生起相修飾成分によって修飾される出来事の生起が、話し手にとって予見できない、つまり、「—予見性」を持っている。

(40) * 明日 (突然/急に/にわかに/いきなり) お酒を飲もう。(作例)

(41) * (突然/急に/にわかに/いきなり) 一緒に、帰りましょう。(作例)

(42) * (突然/急に/にわかに/いきなり) 窓を開めなさい。(作例)

*9 矢澤 (2000、2007) を参照。

*10 工藤 (1995 : p. 21-22) を参照。また、「タクシス」は、「ヤコブソン (R. Jakobson) の用語で、語られるある事象と、もう一つの事象の間の時間的前後関係 (先行・同時・後続) や因果関係、または目的や譲歩の関係などの意味を表現する語彙・文法的なカテゴリーをさす。」(言語学大辞典 第6巻 術語編、亀井孝・河野六郎・千野栄一 編 著1996年初版、2003年1月10日第2刷、p. 886)

*11 赤羽根 (1993)、佐治 (1998)

これに対して、ルチラ (2005a、2005b) では、「とうとう、やっと、ついに、ようやく」によって修飾される出来事は、「+予見性」を持っていると指摘している。筆者が行った 10 人の日本語母語話者に対するネイティブチェックによると、B 類の生起相修飾成分によって修飾される出来事は、いずれも「+予見性」を有する。しかし、B 類の生起相修飾成分によって修飾される出来事は必ずしも「+意図性」を持っているとは限らない。つまり、意志・勧誘・命令などの話し手の「意図性」を表す表現には B 類の生起相修飾成分が用いられない。

- (43) (すぐ/早速/ただちに/即刻/即座に/そのうちに/近いうちに) 始めてください。(作例)
- (44) * (じき (に)/たちまち/たちどころに/程なく/間もなく/やがて/しばらくして/四、五日して) 始めてください。(作例)
- (45) * (とうとう/やっと/ついに/ようやく) 始めてください。(作例)

生起相修飾成分によって修飾される出来事の「意図性」と「予見性」について、まとめると、次の表 4 のようになる。

表 4

	+予見性	-予見性
+意図性	すぐ (に) 直ちに、至急、さっそく、即刻、即座に、そのうち (に)、近いうちに..	
-意図性	じき (に)、たちまち、たちどころに、すかさず、とたん (に)、程なく、間もなく、おっつけ、やがて、しばらくして、四・五日して、数年して、二・三日すると、二、三日たって、十年もたって... ようやく、やっと、とうとう、ついに...	突然、急に、不意に、いきなり、やにわに、突如、咄嗟に、だしぬけに、にわか に、おもむろに、やおら...

4. 終わりに

本稿は、生起相修飾成分を再認定し、下位分類して、生起相修飾成分の素性について記述した。本稿では、生起相修飾成分の枠を矢澤 (2000、2007) における生起相修飾成分より拡大し、赤羽根 (1993) と仁田 (2002) での「もう」「まだ」を生起相修飾成分の枠から取り除いて、「出現相修飾成分」と呼ぶ。

仁田 (2002) での時間量の長さという語彙意味論による下位分類を直して、生起相修飾成分と述語動詞との修飾関係及び意味から、生起相修飾成分を再分類した。本稿の分類は、仁田 (2002) の語彙的意味による分類より、客観的に副詞の素性、副詞と動詞との修飾関係を記述できると思われる。だが、本稿の考察では、各類の生起相修飾成分の素性を明らかにすることまでは至らなかった。個別的に生起相修飾成分の意味・用法もまだ考察していない。これらについては、今後の課題としたい。

参考文献

- 赤羽根義章 1993 「生起相修飾成分」の分類試論—生起に関わる時間量が小さい類—
『言語と文芸』国文学言語と文芸の会編 第109号桜楓社
- 言亀井孝・河野六郎・千野栄一 2003 『語学大辞典第6巻 術語編』第2刷, 三省堂
- 金水 敏 2000 「時の表現」『時・否定と取り立て』(日本語の文法2) (著者 金水敏・工藤真由美・沼田善子) 岩波書店
- 工藤 浩 1985 「日本語の文の時間表現」『言語生活』通号403号
- 工藤真由美 1995 『アスペクト・テンス体系とテキスト』ひつじ書房
- 小林典子 1987 「序列副詞—「最初に」「特に」「おもに」を中心に—」『国語学』151集
- 佐治圭三 1998 「類似表現研究の一例—「急に」「突然」「いきなり」など—」『無差』第5号、京都外国語大学日本語科

- 仁田義雄 1983 「動詞に係る副詞的修飾成分の諸相」『日本語学』2 卷 10 号,明治書院
2002 『副詞的表現の諸相』くろしお出版
2005 「動詞の意味と構文—テンス・アスペクトをめぐる—」『日本語学
特集テーマ別ファイル(1) 意味Ⅰ』宮地裕 編 明治書院
- 馬場 彰 1980 「副詞意味分析試論—一時の副詞を中心に—」『岡山大学教養部紀要』
第 16 号
- 森田良行 1996 『意味分析の方法—理論と実践—』ひつじ書房
2002 『日本語文法の発想』ひつじ書房
- 矢澤真人 1983 「情態修飾成分の整理—被修飾成分との呼応及び出現位置からの考
察」『日本語と日本文学』3 号
1985 「情態修飾成分と〈シテイル〉の意味」『日本語学』4 卷 2 号
1991 「序列と連用修飾—コトの中のモーダルな修飾成分の取り扱い—」『国
語国文論集』20 号
2000 「副詞的修飾の諸相」『日本語の文法 1 文の骨格』仁田義雄・村木新
次郎・柴谷方良・矢澤真人共著,岩波書店
2007 『日本語状態修飾関係の研究』筑波大学博士(言語学)学位請求論文
- 山本雅子 2007 「副詞表現の認知的意味機能 「もう」「まだ」「ついに」「とうとう」
『言語と文化』18 (通号 43),p.1 - 22,愛知大学語学教育研究室 [編]
- ルチラ パリハワダナ 2005a 「副詞『やっど』を通して見た出来事の実現」『金
沢大学留学生センター紀要』第 8 号, p.1 - 28
- ルチラ パリハワダナ 2005b 「長時間経過の末の予見の実現を表す副詞「やっど」
「ようやく」「ついに」「とうとう」について」『金沢大学留学生センター
紀要』第 8 号,p.29 - 50

用例出典

『CD-ROM 版 新潮文庫の 100 冊』(新潮社、1995 年) :

川端康成『雪国』(1947) / 竹山道雄『ビルマの豎琴』(1947) / 三浦哲郎『忍ぶ川』
(1960) / 遠藤周作『沈黙』(1966) / 吉村昭『戦艦武蔵』(1966) / 野坂昭如『ア
メリカひじき・火垂るの墓』(1967) / 阿川弘之『山本五十六』(1969) / 新田次郎『孤
高の人』(1969) / 池波正太郎『剣客商売』(1973) / 田辺聖子『新源氏物語』(1978)
/ 曾野綾子『太郎物語』(1978) / 筒井康隆『エディプの恋人』(1981) / 椎名誠『新
橋烏森口青春篇』(1985) / 村上春樹『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーラ

ンド』(1985) 塩野七生『コンスタンティノーブルの陥落』(1991)

ホウ ギョクゼン／人文社会科学研究科
(2008年10月30日 受理)